

市民助け合いネット

仲間通信

[第42号]

発行

NPO法人
市民助け合いネット
代表 鎌倉 常雄
〒270-0123 流山市若葉台3-131
☎ 04-7153-5733

私たちの仲間

令和3年5月末現在
総数 1,112名
内訳
提供会員 375名
利用会員 737名

社員総会で新役員体制承認 初心を大切に新たなスタート!!

新型コロナウイルス感染症の二回目の緊急事態宣言下、三密対策を講じて五月二十八日(金)社員総会を催しました。議案に沿って令和二年度の事業報告並びに決算報告が行われ、満場一致で承認されました。

次に役員・監事の任期満了に伴う役員改選について審議を行い、新役員候補者、任期満了で退任する役員が満場一致で承認されました。続いて令和三年度の事業計画並びに事業予算が審議され、これからも助け合いの仲間、地域の活動組織づくりに注力することを役員一同で確認し、満場一致で承認され社員総会が無事終了しました。

また、引き続き理事会が開催され、市民助け合いネットの理事代表として、会の設立から今日の発展に尽力されてきた片岡興一氏が辞任し、これまで副代表兼事務局長として会を支えてきた鎌倉常雄氏が新たに理事代表に満場一致で承認されました。

高齢化社会の進展でますます会の役割、会への期待が大きくなっています。活動を途切れさせることなく助け合い活動・元気シニアづくりを次の世代に繋いでいくため会員の皆さまの引き続きのご協力ご支援を切にお願いする次第です。

写真は社員総会風景



市民助け合いネットを取り巻く環境が、令和三年度も「新型コロナウイルス感染症第一」の活動となりました。超高齢社会がますます進行する今、高齢者・障がい者の生活支援活動および元気シニアづくりは、必要不可欠の活動であり、社会的責任も年を追うごとに大きくなっています。

しかしながら新型コロナウイルス禍により昨年度は、活動を大幅にセーブせざるを得ない状況になり生活支援活動や居場所・サロン活動のように対面、集団・密集による活動の難しさを体験させられました。加えて助け合い活動におけるコミュニケーションについても意思疎通に欠ける場面が見られ新型コロナウイルス禍において新たなコミュニケーションの必要性を痛感したことで助け合い活動においてもデジタル活用、オンライン利用の促進など新たな課題に取り組む必要性が生じてきました。

一、超高齢社会が進行し、高齢者支援活動のニーズが高まっている。
二、反面、一億総活躍社会の流れにより働く世代の年齢が上がり福祉活動に参画する世代が七十歳を超えてきている。
三、介護保険改定により住民主体のボランティアな生活支援活動に対する期待とより質の高いサービス提供が求められる時代になった。

市民助け合いネットの現状課題

- ① 会員の年齢層が上がり、生活支援活動に従事してくれる提供会員の高齢化が顕著。
 - ② 全市に生活支援活動の市民団体を増やしたいが当会だけの努力では限界がある。地域包括ケアシステム構築のためには関係機関と連携し協議体による取り組みが望まれる。高齢者福祉の主体となる関係機関、団体との横のつながりが望まれる。
 - ③ 当会を維持・継続させるには助け合い活動だけでは財政基盤が弱い。現状では助け合い以外の委託業務に頼らざるを得ない。
 - ④ 会員数が千名を超え、会の社会的使命、責任が増している。
 - ⑤ 新型コロナウイルス禍における活動の制約、リスクが増している。
 - ⑥ 新型コロナウイルスが収束しない状況では、対面の活動はリスクが大きい。
 - ⑦ 人が密集する居場所・サロン活動ができない。
 - ⑧ 対面によるコミュニケーションがはかれない。
- 助け合いの地域社会実現のための目標**…「多世代交流し、お互いに支え合い、助け合う地域の実現」
- これからの高齢者福祉は地域包括ケアシステムの構築が不可欠。その実現には住民主体の支え合い、助け合いの担い手と組織づくりがポイントになる。そのために全市・全地域に当会と同様な市民団体づくりを進めていく必要がある。
- これからは子育て世代からシニア世代まで、全世代が一体となって支え合う取り組みが求められる。
- その実現に向け当会が先頭に立ち「多世代が交流し、お互いに支え合い、助け合う地域づくり」に取り組んでいく。

社員総会において事業計画および行動計画が満場一致で承認されましたので今後の活動を通して皆さまのご支援、ご協力をお願いする次第です。今回の役員交代にあたり辞任する助け合い活動のチーフとしてご尽力いただいた笠井静子氏に感謝するとともに新たに理事に就任した三木雅子氏および根岸秀男氏の活躍に期待します。

役員体制

役職	氏名
理事代表	鎌倉 常雄
理事副代表	弘田 娃子
理事	永塚 治夫
理事	森 光雄
理事	前田 貞光
理事	高田 吉治
理事	古谷 巖
理事	根岸 秀男
理事	三木 雅子
監事	徳永 基
監事	朝妻 俊和

昨年度活動実績

サービス種別	実績件数	(比率)
ア、外出支援(車)	2,239	81.5
イ、対人支援	71	2.7
ウ、家事援助	86	3.1
エ、庭の手入れ	199	7.2
オ、犬の散歩	70	2.6
カ、その他	81	2.9
合計	2,746	100.0

片岡代表 貴方は活動の源泉でした
いつまでも天国で見守りください



前理事代表の片岡興一氏におきましては、かねてより病氣療養中のところ令和三年六月十二日夕、容態が急変して千葉西総合病院で息を引き取られました。(享年八十二歳)

故人は、高齢化社会の到来をいち早く予見し、日常生活の困りごととを分け隔てなく支援するため、市民助け合いネットを立ち上げ、「困った時はお互い様」の精神を大切に高齢者並びに障がい者の福祉活動を始め地域における市民活動の発展に尽力してきました。皆さまには生前のご厚誼に感謝し謹んでご通知申し上げます。また市民助け合いネットは故人の遺志を大切に、より一層の助け合い活動と元気シニアづくりに邁進する所存ですので倍旧のご支援・ご協力をお願いいたします。

なお、ご本人ご家族のご遺志によりすでに近親者のみで家族葬で葬送されておりますことをお知らせいたします。市民助け合いネットとして故人の功徳を讃え永くその遺志を繋いでいくため「しのぶ会」を催すことを計画しています。しのぶ会につきましては日をあらためてご案内申し上げます。

令和2年度 活動報告

助け合い活動

助け合い活動件数は、年間二千七百四十六件でした。昨年は、新型コロナウイルスによる活動自粛の影響で対前年四十八%の大幅減となりました。活動は人工透析、抗がん治療など、命に係る治療が必要な方の送迎を重点に活動しました。三密を避けるため、屋内や病院内の生活支援活動を控えさせていただいたことで日常生活のお困りごとにお応えできず、申し訳なく感じています。会員数は、利用会員の入会を極力控えた影響で昨年から三十二名減しました。新入会員は三十一名、内提供会員は松ヶ丘地域を中心に十九名増えました。

ふれあい活動

ふれあいの家「えがお」の活動は、新型コロナウイルス対策で年間を通して活動を自粛した影響で利用者は千五百二名にとどまり、前年の三分の一以下の利用となりました。

行政からの受託事業

新型コロナウイルス下の工夫として映画鑑賞やオンラインによる音楽配信など新しい試みに挑戦しました。

高齢者外出支援

流山市の高齢者福祉政策の一環で提供している外出困難者向けの外出支援サービスに協力しています。令和二年度は延べ四百八十四人の方を支援しました(前年の二十五%減)この活動は四十六名の登録運転者の協力を得て活動しています。

公民館の管理運営

流山市の「初石公民館」と「南流山センター」を指定管理者として管理・運営を任されています。昨年の利用者は約六万六千四百六十九人の方が利用されました。これは前年の三分の一の利用にとどまりました。新型コロナウイルスによる公共施設の利用規制の影響が大きく、自主事業についても公民館祭りをはじめ計画が未消化になりました。

市民活動推進センターの管理運営

市民活動推進センターの役割は、市民団体・グループの活動活性化のための中間支援機能を発揮することにあります。昨年以降、新型コロナウイルス感染症が市民活動に大きな影を落としています。コロナ禍において活動を停滞させることのないようにコーデイネーターの協力などを得て市民団体に対するアンケート調査や今月初めの試みとして「市民活動はコロナに負けない」を合言葉にオンラインフェスタを開催しました。コロナによる環境変化に対応した市民活動の好例として評価できるものでした。昨年度の市民団体の新規登録は、六団体で登録団体は百九十九団体となっています。



オンラインフェスタのライブ配信でボランティア会員を募集しました。

その他活動

交通安全教室については、保育園幼稚園および小学校低学年を対象に横断歩道の正しい歩行、PTAの方への旗振り指導などを実施していましたが、昨年はすべての予定が中止になりました。

会員の皆さま暑中お見舞い申し上げます。時節柄、健康第一でお過ごしください。

☆事務所からのお願い

- 庭木の剪定、草刈りについては7月、8月中の依頼は控えてください。
- 屋内の家事支援活動はコロナ禍により当分の間、控えさせていただきます。
- 提供会員の皆さんへ
新型コロナウイルス禍で活動を自粛していましたが、活動を徐々に再開します。皆様のご協力をお願いいたします。